

令和 5 年度版

環境経営レポート

令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月

株式会社 都南ビーピー

発行日 令和 6 年 10 月 1 日 第 17 号



1. 環境経営方針

当社は、メッキ事業を通して産業の発展に貢献致します。

<品質方針>

- 顧客満足の上昇を第一に、品質要求事項を満たす製品を供給する。

<品質目標>

- 顧客満足の上昇のため、納期を厳守すべく不良対策を実施し、絶えず改善に取り組む。

<環境方針>

- 環境に関わる法律・規則・条例を遵守して、地域社会と協力を図り、環境の保全・再生に積極的な取り組みを目指す。
- 公害対策を実施し、環境経営の継続的改善を行い、より安全で環境にやさしい工場稼働を実現していく。また、具体的取り組みとして次の項目に積極的に取り組む。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
 - ② 水使用量の削減
 - ③ 廃棄物排出量の削減
 - ④ 化学物質の削減
 - ⑤ グリーン購入の推進
 - ⑥ クレーム件数の削減
- 従業員の育成に努めます

平成 23 年 3 月 31 日制定

令和元年 12 月 5 日改定

株式会社 都南ビーピー

代表取締役 大村 功一郎

2. 会社概要

弊社は、バレルめっきでは小ねじ、キャップスクリュー、プレス、挽物類他を鍍金させていただいており、ラックでは、配電用銅板、プレス、工作部品他の鍍金をさせていただいております。

環境と安全に配慮し、昭和 48 年よりノンシアン化を実施しています。

平成 19 年 8 月に移転した大田工場では、さらに顧客満足の向上と環境に配慮し、RoHS 指令対応やグリーン調達等に対応するため、六価クロムの使用も“ゼロ”にし、環境にやさしい工場にしました。

令和 4 年 7 月に本社を目黒工場（旧称：大村メッキ工場）の建屋に移転し、顧客サービス向上・業務効率向上に繋げました。

1) 社名

株式会社 都南ビーピー

2) 代表者

代表取締役 大村 功一郎

3) 所在地

①本社・目黒工場（旧称：大村めっき工場）

東京都目黒区鷹番 1-1-12

②大田工場（バレル専門）

東京都大田区中央 7-16-3

4) 環境管理責任者

大村 功一郎

5) 連絡先 TEL 03-3719-8221

FAX 03-3760-9027

6) E A 2 1 へ登録する事業活動

亜鉛めっき、ニッケルめっき、錫めっき等金属表面処理業

<事業内容>

■本社・目黒工場

：総務・経理

：三価クロメート・クロメート・黒亜鉛・ユニクロ・ニッケル・
半光沢錫・キリンス・パシペート・その他。

■大田工場

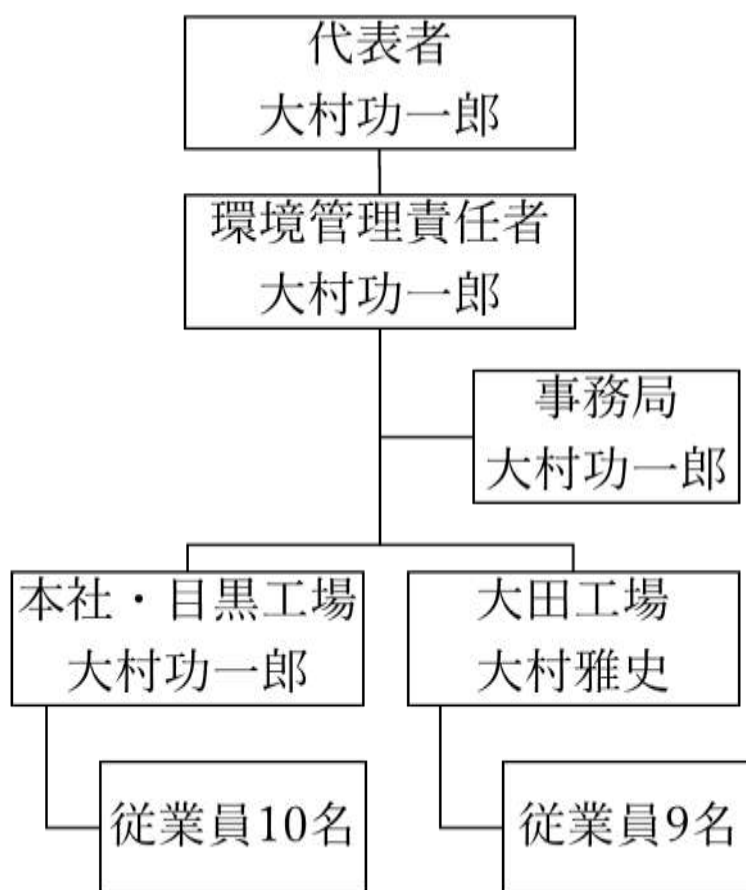
：ノンクロム・三価クロメート・三価黒クロメート・
スズコバルト合金（クローム色）・
スズニッケル合金（黒ニッケル色）・ニッケル・
無電解ニッケル・ベーキング・その他

7) 事業規模

	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
従業員（人）	19	19	19	19
床面積（㎡）	396	396	396	396
売上高（万円）	17,748	19,200	22,327	212,650

3. 環境実施体制

3－1. 組織図



公害防止管理責任者

大田工場 大村雅史

本社・目黒工場 木下由康

水質管理責任者

大田工場 大村雅史

本社・目黒工場 木下由康

3－2．役割、責任及び権限

代表者

経営における課題とチャンスを整理し、明確にする
実施体制を構築し、役割、責任及び権限を定め、全従業員に周知
環境管理責任者の任命
必要な人員、設備、費用等の準備
環境経営方針の設定、誓約
環境経営目標、環境経営計画の承認
全体の評価と見直し、指示

環境管理責任者

環境マネジメントシステムの構築
環境経営目標、環境経営計画の作成及び社内周知
実施、運用の責任
システムの運用状況等の代表者への報告

従業員

環境経営目標、環境経営計画等に基づくEA21活動の実施
EA21活動に関する提案

事務局

EA21文書及び記録類の作成

本社業務

事務処理全般
環境保全活動の取り組み内容実施

工場

表面処理全般
環境保全活動の取り組み内容実施

4. 環境経営目標

	単位	基準値 (平成 26 年度 ベース)	R5 年度	R6 年度	R7 年度
二酸化炭素排出量	kg-CO2	149,000	142,746 (△4.2%)	141,550 (△5%)	141,550 (△5%)
水使用量	m ³	5,000	3,750 (△25%)	3,750 (△25%)	3,750 (△25%)
一般廃棄物削減量	t	0.914	0.896 (△2%)	0.896 (△2%)	0.896 (△2%)
産業廃棄物削減量	t	11.00	10.78 (△2%)	10.78 (△2%)	10.78 (△2%)
化学物質削減量	k g	1,156 (平成 30 年度実績)	1,153 (△0.24%)	1,144 (△1%)	1,144 (△1%)
グリーン購入の 推進		環境配慮資材・事務用品・電気及び電子部品・車両の購入	環境配慮資材・事務用品・電気及び電子部品・車両の購入	環境配慮資材・事務用品・電気及び電子部品・車両の購入	環境配慮資材・事務用品・電気及び電子部品・車両の購入
クレーム件数の 削減		不良品の削減 納期の対応	不良品の削減 納期の対応	不良品削減 納期の対応	不良品削減 納期の対応

※基準値を平成 26 年度実績ベースと今後の事業予測を勘案した数値に変更。

※一般廃棄物削減量の基準値は令和元年度の実績である。

5. 環境経営目標の実績

■令和 5 年度環境経営目標の実績

	単位	目標値	実績値	評価
二酸化炭素の排出量削減	Kg-co2	142,746	136,793	○
水使用量の削減	m ³	3,750	3,244	○
一般廃棄物排出量削減	t	0.896	0.882	○
産業廃棄物排出量削減	t	10.78	9.03	○
化学物質削減量	k g	1,153	1,018	○
グリーン購入の 推進		環境配慮資材・事務用品・電気及び電子部品・車両の購入	環境配慮事務用品の購入は実施した。	○
クレーム件数の 削減		不良品の削減 納期の対応	不良品の削減及び納期対応は実施できた。	○

*二酸化炭素排出量係数は 0.418 を使用

6. 環境経営計画及び環境経営計画に基づき実施した取組内容

環境経営計画		実施した取組内容
目標項目	取組項目	
二酸化炭素排出量の削減	・エコドライブ ・空調管理 ・過熱乾燥機の省エネ ・照明管理	アイドリングストップ、急発進急加速の抑制及び、効率配送に取り組んだ。ハイブリッド車1台あり。過熱乾燥機に温調器を設置し、季節により適正な温度に設定している。 冷暖房の適正温度設定及び冷暖房控目使用に対しての社員意識の再確認。照明は順次LEDに変更している。 太陽光パネル発電システム導入。
水使用量の削減	・節水 ・洗浄作業の合理化	節水と洗浄作業の合理化に努めている。水道に流量計を設置し流量をコントロールしている（大田工場）。目黒工場にも流量計を設置する予定である（工事を依頼している）。終業時に元栓を閉めている。水洗槽の水の交換を、状態を見て交換するようにし、交換頻度を下げている。
一般廃棄物排出量の削減	・分別の徹底 ・紙類、缶・瓶使用量の削減	裏紙の利用、連絡は電子化等、段ボールや紙類は分別を良くしリサイクルに出し廃棄物の排出量を減らしている。缶・瓶は購入先に戻している。 排出ごとに排出を把握するようにした。
産業廃棄物排出量の削減	・排水汚泥管理 ・分別の徹底 ・梱包材等の再利用	排水汚泥削減の為に、適正な薬品量で排水処理を実施し汚泥の発生を減らしている。排水の金属イオンを減らす薬品を使いすぎないように管理している。
化学物質使用量の削減	・化学物質使用管理 ・使用量の削減	化学物質使用量削減の為に化学物質適正補給の教育と基準の見直しを実施。廃棄化学物質で中和をするようにしている。 排水に含まれる重金属量を減らすために塩化カルシウムを用いているが、使用量を多くしすぎると汚泥の量が増加するので適量の管理をするようにしている。
グリーン購入	環境配慮資材・事務用品・電気及び電子部品・車両の購入	三価カート購入及びグリーンマーク事務用品の購入に取り組んだ。車両の購入ではハイブリッド車に買い換えた。
クレーム件数の削減	不良品の削減 納期の対応	納期対応はできた。検品をする人を1名採用し、厳密に検品を行った。クレーム原因の分析結果を従業員にもフィードバックし、意識の向上を図っている。

【SDGsの取り組み】持続可能な社会の実現に向けて、地球資源と生活環境を大切にしながら人々の安心安全な暮らしを支えるものづくりを目指していきます。



7. 環境経営計画の取組み結果とその評価及び次年度の環境経営計画

環境経営計画		取組結果	次年度の取組計画
目標項目	取組項目	評価	
二酸化炭素排出量の削減	・エコドライブ ・空調管理 ・過熱乾燥機の省エネ ・照明管理	計画通り実施した。	今年度の取組の継続 アイドリングストップ、急発進急加速の抑制及び、効率配送に引き続き取り組む。 過熱乾燥機の温調器を季節により適正な温度に設定していく。 冷暖房の適正温度設定及び冷暖房控目使用に対しての社員意識の再確認。照明は順次LEDに変更している。 従業員が意識して取り組むように声掛けを実施していく。
		○	
水使用量の削減	・節水 ・洗浄作業の合理化	計画通り実施した。	今年度の取組の継続 大田工場同様、目黒工場も流量計で流量制御を予定している
		○	
一般廃棄物排出量の削減	・分別の徹底 ・紙類、缶・瓶使用量の削減	排出量を把握した	今年度の取組の継続 排出量削減の目標を設定して取り組む。
		○	
産業廃棄物排出量の削減	・排水汚泥管理 ・分別の徹底 ・梱包材等の再利用	計画通り実施した。	今年度の取組の継続 廃棄化学物質で中和し汚泥の削減
		○	
化学物質使用量の削減	・化学物質使用管理 ・使用量の削減	計画通り実施した。	今年度の取組の継続 排水の金属イオンを減らす薬品を使いすぎないように注意する。
		○	
グリーン購入	環境配慮資材・事務用品・電気及び電子部品・車両の購入	計画通り実施した。	今年度の取組の継続 事務用品以外のグリーン対象品の購入
		○	
クレーム件数の削減	不良品の削減 納期の対応	計画通り実施した。	今年度の取組の継続 従業員の育成 クレーム原因の分析結果を従業員にフィードバック
		○	

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社におきましては、下表の環境関連法規等への違反はありませんでした。
また、関係当局より違反等の指摘も過去三年間ありません。

		確 認	遵守結果
1	下水道法	水質分析結果、施設の届出	良
2	水質汚濁防止法	有害物質施設の地下浸透防止	良
3	廃棄物処理法	マニフェスト伝票の発行	良
4	フロン排出抑制法	空調機の管理と簡易点検	良
5	毒劇物法	毒劇劇物の表示・保管管理	良
6	特定化学物質障害予防規則	表示・保管	良
7	家電リサイクル法	テレビ・冷蔵庫・洗濯機・エアコンの廃棄	良
8	東京都環境確保条例	表示・公害防止管理者届出・工事設置届出	良
9	東京都下水道条例	水質管理者の届出	良

9. 代表者による全体の評価と見直し結果

エコアクション 21 に取り組むことで、環境に関わる法律・規則・条例を遵守し、環境保全・資源再生に取り組んでいくと共に、品質向上を一番に掲げ、技術的な改善を関係業者と相談し取り組み、コスト削減に努力していきます。

■見直し結果

	項 目	見直し結果
1	環境方針	2017年版対応に変更済み。
2	環境経営目標	従業員が意識して今年度の取り組みの継続ができるように声掛けを実施していく。 仕事量の変動に合わせられるように注意する。
3	環境経営計画	2017年版の要求事項に対応して、環境経営計画のクレーム件数の削減目標の取組手段に「従業員の育成」を継続する。 二酸化炭素排出量の目標値は元に戻し、ガソリンと軽油の使用量の比は実績に合わせて変更する。
4	実施体制	変更なし
5	環境経営システム	現在の環境経営システムを継続する。

令和 6 年度（次年度）環境経営目標				承認	作成
				大村（功）	大村（功）
	単位	基準値 (平成 26 年度 ベース)	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
二酸化炭素排出量	Kg-co2	149000	141,550 (△5%)	141,550 (△5%)	141,550 (△5%)
水使用量	m ³	5000	3,750 (△25%)	3,750 (△25%)	3,750 (△25%)
一般廃棄物削減量	t	0.914	0.896 (△2%)	0.896 (△2%)	0.896 (△2%)
廃棄物削減量	t	11.00	10.78 (△2%)	10.78 (△2%)	10.78 (△2%)
化学物質削減量	k g	1,156 (平成 30 年度実績)	1,144 (△1%)	1,144 (△1%)	1,144 (△1%)
グリーン購入の推進		環境配資材・事務用品・電気及び電子部品・車両の購入	環境配資材・事務用品・電気及び電子部品・車両の購入	環境配資材・事務用品・電気及び電子部品・車両の購入	環境配資材・事務用品・電気及び電子部品・車両の購入
クレーム件数の削減		不良品の削減 納期の対応	不良品の削減 納期の対応	不良品の削減 納期の対応	不良品の削減 納期の対応

*基準値を成 26 年度実績ベースと今後の事業予測を勘案した数値に変更。

*一般廃棄物削減量の基準値は令和元年度の実績である。

以上